

スイートピー新品種「真白麻呂」の育成

○倉永泰代・中村 広・中村 薫¹⁾・長友広明²⁾・中岡直士¹⁾

(宮崎総農試,¹⁾ 東臼杵農林振興局,²⁾ 宮崎農大校)

【目的】

宮崎県は、冬季の豊富な日照条件を生かしたスイートピーの栽培が盛んで、その生産量は全国1位である。そのような産地背景の中で、宮崎総農試ではオリジナルの品種育成に取り組み、これまで19品種を育成してきた。

経営主および家族専従者が望ましいと考える品種の形質を調査したところ、「日持ち性の良い品種」と回答した対象者は、全体の20%を占めていた(中村ら 2012)。

そこで、近年、日持ち性の良いスイートピー品種の育成に取り組んできており、これまで2品種を育成した。

今回、新たに日持ち性が良く、需要の多い花色である白色の品種「真白麻呂」を育成したので、その経過と特性の概要を報告する。

【育成経過】

2011年春に春咲き系品種「ステラ」(花色：クリーム色)と春咲き系品種「スーパーミッドブルー」(花色：紫色)の組み合わせで交配を行った。花色がばらつく中から、白色の花色をもつ個体を選抜した。F₃世代からは、個体ごとの日持ち性について調査した。選抜および自殖を繰り返した後、F₆で固定したため、能力検定および現地での適応試験を行った。その結果、有望と認められたので2019年6月に育成を完了した。

【品種特性】

花色は、旗弁が緑白色(JHSチャート

No.3501)、翼弁が黄白色(JHSチャートNo.3301)である。1花房当たりの着輪数は、5～6輪の多輪系であり、開花習性は春咲き性である。3月までの切り花本数は、1株当たり約28本、4P2L以上が約10本である。本品種の日持ち性は、約5日であり、「ステラ」の約4日と比較して優れており(STS不使用時)、STS使用時においても、「ステラ」と比較して日持ち性が優れる(表1、図1)。

促成栽培では、28日の種子冷蔵処理後、9月中旬に播種すると10月中旬から発蕾し、11月から収穫可能となる。

表1 「真白麻呂」と対照品種の主な特性

	品 種	真白麻呂	ステラ
花色	旗弁 (JHSチャートNO.)	緑白 (3501)	淡黄 (2503)
	翼弁 (JHSチャートNO.)	黄白 (3301)	淡黄 (2503)
	日持ち日数 ²⁾	約5日	約4日
	開花習性	春咲き性	春咲き性

²⁾ 鮮度保持剤不使用



図1 「真白麻呂」の切り花